

## 2. インテーク・アセスメント

### (1) インテーク・アセスメントシート (p. 18) の使い方

インテーク・アセスメントは、緊急支援の必要性や今後の支援の方向性を見立てるために行うものです。ただ、詳細な情報を聞き取るだけで得られた情報をしっかりと見立てに活かすことができなければ、家族に余分な負担をかけるだけでなく、支援者との信頼関係構築を妨げることもなりかねません。家族には、なぜこれらの情報を聞き取る必要があるのか事前に説明して理解を得るとともに、質問攻めにならない自然な流れで必要最小限のことを無駄なく聞くことを心掛けましょう。情報を聞き取る目的や着眼点、重要な聞き取りポイントなどは、表2「インテーク・アセスメントシートの使い方」を参考にしてください。最初から漏れなく完璧な聞き取りをすることよりも、共感的な態度や支援への積極性を示し、初期段階の基本的な信頼関係を構築することのほうが大切です。

インテーク・アセスメントシートの☆は、緊急対応の判断に重要な事柄ですので、初めての電話を受けた時に確認しておくようにしましょう。

表2 インテーク・アセスメントシートの使い方

シートの番号	■ 聞き取る目的	☆ 留意すること
1～3番	■ これらの情報は、薬物関連問題について家族が既にどのような情報をどれくらい持っているのか予測し、今後必要となる支援を考えるのに役立つ。 ☆ 家族がこれまでどのような支援を得て、そのなかで何をできてきたか確認する。	
4番	■ インテーク・アセスメントの結果を整理し共有する中で、家族と支援者が合意できる妥当な支援目標（17番）にたどりつくことを目指す。 ☆ 家族の来所時のニーズをそのまま書き込む。 ☆ 家族の願いや要望が不適切なものに感じられたとしても、それを直接的に否定したり、無理に修正したりしない。	
5番		☆ 家族や本人と身近な関係にある親族の情報を中心に整理する。 ☆ 家族関係の改善や再構築のためにも重要なので、家族構成だけでなく、お互いの関係性についても把握しておく。 ☆ ジェノグラムは3世代まで遡る必要はないが、アルコール・薬物の問題や精神疾患が疑われる親族の情報は書き留めておく。
6番		☆ 何歳からどんな薬物をどれくらいの頻度で使っているか、薬物関連問題がどれくらい本人と家族の生活に悪影響を与えているかなどを記入する。
7番		☆ これまでの依存症治療の経験や相談歴、現在の意欲などを記入する。
8番	■ 本人の就労状況や経済的自立度も重要な情報の一つである。 ☆ 幼少期の様子、学校生活上の問題（不登校、いじめ、成績不振など）の有無、養育体験上の問題（虐待、親との離別など）などを中心に、情報を時系列に整理する。	

表2 インテーク・アセスメントシートの使い方（続き）

シートの番号	■ 聞き取る目的	☆ 留意すること
9番	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在の精神状態（精神症状、うつ、不安など）の他に、摂食障害や発達障害の可能性も視野にいれながら、既往歴についても情報収集する。</li> <li>■ 自傷については必ず聞き、緊急対応の必要性を検討する際に役立つ。デリケートな問題だからと支援者が変に緊張すると、家族はかえって話しづらくなる。自傷経験がある場合は、方法、程度、頻度、エスカレートしているかどうかなどを確認する。</li> </ul>	
10番	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本人に関する情報の中には、薬物関連問題とあまり関係ないと思えるものが多数含まれているが、これらの情報を幅広く得ておくことは、本人が抱える生きづらさがどれくらい深刻であるか、それを乗り越えて、薬物に頼らず生活していくために今後どれくらいのサポートが必要かを考え支援を検討していくためにとても重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 感染症（C型肝炎、HIVなど）などの身体疾患に関する情報の他、現在の健康状態（極端な痩せ、衰弱など）についても書き留めておく。</li> </ul>
11番	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 薬物関連問題の解決に向けた家族の積極性を確認する。</li> <li>■ 家族の中には、本当のことをいうとこれ以上本人に関わりたくないとか、できることなら本人から逃げ出したいという気持ちを持っている人もいるので、世間体や建前でない家族の本当の気持ちを引出し、家族のニーズに沿った支援を行うことが必要である。</li> <li>■ 一見すると薬物関連問題の解決にむけて非常に消極的でも、実は自信のなさがその大きな原因であるということもあるので、真のニーズを見誤ることがないようにしっかりと家族の気持ちに寄り添うことが大切である。</li> </ul>	
12番	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 極端な貧困状態がないかなどを確認する。</li> </ul>	
13番		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 家庭内で暴力が起きているなど、薬物以外の重要な問題がある場合書き留めておく。</li> </ul>
14～15番		<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 緊急時の対応が必要になる典型的な例については「3. 緊急対応を検討すべき状況と対応方法」(P. 19) も参考にするとよい。</li> </ul>
16～17番	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最後に、聞き取った情報を整理して課題を明らかにし、今後の支援目標を家族と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ この時点での支援目標は、「本人を回復のための社会資源につなげる」「本人との関係性をもう少しよくする」「家族の生活を安心、安全なものにする」など大まかなものでよい</li> <li>☆ 家族の関心が強い目標を一つか二つ設定し、以降の継続面接につなげる。</li> </ul>

## インタビュー・アセスメントシート

相談者氏名	記録者氏名	実施日	年	月	日
1.相談経路		5.家族構成（ジェノグラム）  ☆家族の中に緊急介入の必要な人は？			
2.これまでの相談歴の有無    あり    なし					
3.相談歴の概況					
4.主訴・来所目的					
<b>薬物乱用者本人に関する情報</b>					
6.薬物使用状況    （使用開始年齢、使用薬物、使用頻度）			9.精神的現症  ☆自傷他害につながる精神症状は？		
7.薬物関連問題の治療に対する意欲					
8.生活歴・教育歴・司法矯正歴					
			10.身体的現症  ☆生命の危機は？ （衰弱や自傷他害の程度は？）		
11.相談者の薬物関連問題解決に向けた意欲		12.経済状況  ☆極端な貧困状態は？		13.薬物以外の深刻な問題  ☆家庭内に暴力は？	
14.緊急対応の必要性    あり    なし					
15.緊急対応を必要とする理由					
<b>結果の整理と今後の支援</b>					
16.課題と背景要因					
17.今後の支援目標					